

## 診療情報を集めて行う臨床研究に関するお知らせとお願い

熊本機能病院 総合リハビリテーション部では、「当院回復期リハビリテーション病棟における病棟内移乗自立基準の妥当性についての検討」の研究に取り組んでいます。

### 研究の概要

実用歩行が困難で車椅子を移動手段とする患者さんにとって、移乗自立はリハビリテーションの鍵ともいえる重要な動作であるといえます。その一方で、移乗は転倒発生につながりやすい動作であり、集中的なリハビリテーションによる日常生活動作変化が著しい回復期リハビリではとくに転倒発生率は高くなります。

回復期リハビリテーション病棟は、多職種による集中的なリハビリテーションを実施し、機能回復とともに活動的で自立した生活を支援することを目的としています。しかし活動性向上と転倒予防対策を両立させることは重要かつ難渋する課題です。

移乗自立指標を研究する文献も多く出されていますが、移乗自立の基準は統一されていないのが現状であり、臨床現場において移乗自立の判断をする際には、個人の経験や主観的な観察評価による判断にとどまっています。そのため、療法士（リハビリスタッフ）の身体機能評価による判断、実際の生活での観察評価、これらを総合的に判断することが望ましいと考えます。

そこで、2022年3月から熊本機能病院でベッド—車椅子間の移乗自立の可否を決定する際に使用している移乗自立基準の妥当性（どの程度的確に評価できているか）を検討することを目的としました。

### 対象となる方

2020年4月1日から2021年3月31日の期間に当院回復期7病棟に入院していた患者さん及び2022年4月1日から2023年3月31日の期間に当院回復期7病棟に入院していた患者さん

## 利用を開始する予定日

2023年11月1日から

## 研究期間

2023年10月24日 ～ 2024年10月23日

## 利用する診療情報

年齢、性別、疾患名、発症・受傷日、入院日（回復期7病棟への入棟日）、退院日、入院時と退院時における移乗FIM（Functional Independence Measure：日常生活動作を評価する方法で7段階評価）の点数、移乗自立時のSTRATIFY（転倒リスクがどの程度あるのか点数化できる評価）の合計点、Berg Balance Scale（BBS：バランス機能を複合的に評価）の合計点、Cognitive-related Behavioral Assessment（CBA：高次脳機能障害を評価）の合計点、移乗自立アセスメントシート結果

研究機関の名称：熊本機能病院 総合リハビリテーション部

研究責任者氏名：三宮克彦

## 個人情報の取扱いについて

診療情報の利用に関しては、個人情報は全て匿名化されてから解析されますので個人情報が漏れることはありません。また研究結果は、学術雑誌や学会等での発表に使用させて頂くことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。

上記の研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき実施しております。この研究にあなたの診療情報が利用されることに同意できない場合は対象と致しませんので、お手数ですが下記のお問い合わせ先にご連絡ください。また、ご不明

な点があるとき、または研究計画等に関する資料をお知りになりたい場合は他の対象者の個人情報や研究全体に支障となる事以外はお知らせすることができますので、ご連絡ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用させていただくことに対して同意が得られたものとさせていただきます。また、研究にご協力いただけない場合でも診療上の不利益を被ることはありません。

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称

社会医療法人寿量会 理事長 米満弘一郎

お問い合わせ先

熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法課 来海勝広

T E L : 096-345-8111(内線 2563)、 F A X : 096-345-8188